
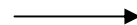







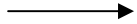



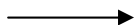

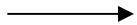
夏秋野菜の生育状況と8月の価格見通しについて（8月1日現在）
 （東京都中央卸売市場に係る主産県及び卸売会社からの聞き取りによる）

（総論）

品 目	現 在 の 生 育 状 況
根 菜 類	北海道産が、降雨により播種作業ができなかったこと等から生育は10日程度遅延。
葉 茎 菜 類	天候に恵まれて生育は概ね順調。
果 菜 類	7月下旬以降気温が低下して生育は遅延気味。
土 物 類	北海道産においては、たまねぎは降雹被害及び多雨の影響で収量が低下。ばれいしょは5月の降雨による生育遅れが影響して収量が平年をやや下回る見込み。

品 目	主 産 県 ※（ ）書きは 昨年8月の入 荷シェア。	現 在 の 生 育 状 況 等	価 格 見 通 し	
			8 月 前 半	8 月 後 半
だ い こ ん	北海道(67%) 青 森(21%)	<ul style="list-style-type: none"> 北海道は、4月下旬～5月上旬の降雨により播種ができなかったこと及び7月下旬の干ばつの影響で生育は10日程度遅れているが、<u>収量は平年並の見込み</u>。 青森県の出荷は終盤を迎え出荷数量は徐々に減少。 		
に ん じ ん	北海道(82%) 青 森(8%)	<ul style="list-style-type: none"> 北海道は7月下旬から収穫を開始。<u>平年収量を見込むが</u>、4月下旬～5月上旬の降雨により播種作業ができなかったため8月上～中旬頃の出荷が品薄になる可能性はある。<u>8月前半の価格は、7月までの主産県（千葉県産等）の出荷量が予想を超えて多く流通在庫等があるため低調気味で推移する見込み</u>。<u>8月後半の価格は平年並に回復する見込み</u>。 青森の生育は順調。 		

はくさい	長野(86%) 群馬(6%)	<ul style="list-style-type: none"> 生育は概ね順調。 	→	→
キャベツ	群馬(77%) 岩手(11%)	<ul style="list-style-type: none"> 生育は順調。 8月前半の価格は低調に推移する見込み。 8月後半の価格は、7月下旬から気温が低く、やや日照不足気味であることから玉伸びは若干遅延。また、キャベツの需要動向は、盆明け以降に近年伸びる傾向にあるので<u>価格は上昇する見込み</u>。 	↘	↗
ほうれんそう	栃木(33%) 群馬(25%)	<ul style="list-style-type: none"> 高温の影響で生育が鈍っていたが、7月下旬以降は気温が低下して生育は回復傾向。原発事故に伴うほうれんそうの出荷制限を受けて他品目へ転作した生産者があり、<u>出荷数量は平年を下回る見込み</u>。 	↗	↗
ねぎ	茨城(32%) 青森(21%)	<ul style="list-style-type: none"> 生育は概ね順調。 	→	→
レタス	長野(85%) 群馬(11%)	<ul style="list-style-type: none"> 生育は順調。<u>現在の出荷数量はピーク</u>であり、8月中旬から徐々に出荷数量が減少する見込み。 8月前半の価格は低調気味で推移する見込み。 8月後半の価格は、長野県産の出荷数量が徐々に減少することに加え、レタスの需要動向は、盆明け以降に近年伸びる傾向にあるので<u>上昇する見込み</u>。 	↘	↗

きゅうり	福島(46%) 岩手(23%)	<ul style="list-style-type: none"> 主産県の福島県における原発事故の影響で作付が10～14日間できなかったことや、7月下旬から気温が下がっており生育は遅延。 		
なす	栃木(32%) 茨城(23%)	<ul style="list-style-type: none"> 高温状態が続いたことにより花落ちするなど生育はよくなかったが、7月下旬以降は気温が低下してきたので生育は回復傾向。 		
トマト	青森(26%) 福島(19%)	<ul style="list-style-type: none"> 7月下旬以降、夜温が低下したためトマトの熟成ペースが鈍っており収穫量が減少。 また、量販店による販促の効果もあってトマト需要が増加しているので、8月後半の価格は高値で推移する見込み。 		
ピーマン	岩手(40%) 茨城(16%)	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県においては、7月中旬までの少雨と高温により病害が発生して出荷数量がやや減少。 茨城県においては、一部の生産者が6月までの価格低迷を受けて秋物ピーマンの栽培に切り替えたため出荷数量が減少しているため、8月前半の価格は高値で推移。 現在気温が低下して生育は回復傾向にあることから8月後半の価格は平年並になる見込み。 		
ばれいしょ	北海道(62%) 茨城(13%)	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産においては、5月の降雨による生育遅れが影響して収量は平年の95%をやや下回る見込み。 8月前半の価格は、7月までの主産県（茨城県等）の出荷量が予想を超えて多く流通在庫等があるため低調気味で推移する見込み。8月後半には平年並に回復する見込み。 		

さといも	千葉(42%) 宮崎(38%)	<ul style="list-style-type: none"> 3月頃が低温であったことから<u>生育はやや遅延</u>。 生産者数は減少傾向で推移しているため<u>出荷数量はやや減少</u>する見込みであるが、<u>需要も近年減少傾向で推移</u>しており、<u>価格は8月後半まで平年並の見込み</u>。 	→	→
たまねぎ	佐賀(32%) 兵庫(30%) 北海道(27%)	<ul style="list-style-type: none"> 北海道北見管内における<u>6月上旬の降雹被害により出荷数量が平年比▲3万トンとなる見込み</u>。これは北海道全体の平年出荷数量の▲4%に相当。さらに、<u>6月～7月の多雨で根が傷み小玉傾向となったことから、総じて収量は平年の8割～9割になる見込み</u>。 <u>8月の価格は、7月までの主産県（兵庫県及び佐賀県）の収穫量が予想を超えて多く流通在庫等があるため低調気味で推移</u>する見込み。 なお、<u>9月以降の価格は、北海道産たまねぎの収量が平年を下回ることから高値で推移</u>する見込み。 	↘	↘